

No. 341 2023年10月20日

日本共産党札幌市議団 事務局 TEL 211-3221 / fax 218-5124

札幌ドームの周辺開発 そのものの見直しを

10月18日 決算特別委員会 小形かおり委員

札幌ドームは2022年に条例改正が行われ、中規模な観戦・鑑賞型の催し物ができるよう、新コース、コンサートモードを取り入れる、アリーナを2分の1で利用できるようになりました。しかし、ファイターズの撤退後、計画していたイベント日数を確保出来ないことなどに加え、毎年10億円規模の保全費を要しています。このような中でオリ・パラの大会概要案、札幌ドーム周辺地域におけるスポーツ交流拠点基本構想では札幌ドーム周辺に新月寒体育館を移設する計画があり、小形市議が質問に立ちました。

同市議は「大会概要案では、新月寒体育館に400億円、施設整備費としてかかるというふうに示されている。2030年のオリ・パラ招致を断念したという今の現状で、国から180億円の補助をもらえる見直しはあるのか」と質問。市の担当者は「これから国との協議を進めてまいります」と見直しについて答弁することが出来ませんでした。重ねて同市議は「国が持っている農業研究センターの土地を購入して新月寒体育館を建てる計画だが、土地の購入が出来る見直しはあるのか」と質問。市の担当者は「継続的に用地取得やその取得費について交渉を行ってきた。今後も用地取得に関わる交渉を継続してまいりたい」と答弁し、用地取得についても見直しがないことが明らかになりました。

最後に同市議は「新月寒体育館をドーム周辺に集めて作ろうという計画案は、オリ・パラ招致を断念した段階で、そのものの見直しが求められているのではないのでしょうか。計画も抜本的に見直すべきだ」と強く要望しました。

大倉山の樹木 開発のために伐採するのか

10月18日 決算特別委員会 小形かおり委員

宮の森ジャンプ競技場を大倉山ジャンプ競技場に併設化する計画では、併設化の為に費用をラージヒルで21億、新設のノーマルヒルで61億かかるとしています。小形市議は札幌市民のレガシーである宮の森ジャンプ競技場を無くしてはならないとして、質問に立ちました。

同市議は「前回質問したときに、この併設化によって、風致地区の樹木を切ることになるのではないかとというふうに質問をいたしました。そこでは、樹木の伐採は最小限にとどめる計画だという答弁でした。このジャンプ場の新しい計画の進捗状況はどうなっているのか。そして、樹木を伐採するという計画に変わりがないのか」と質問。市の担当者は「併設化に向けて現在ジャンプ台の形状や位置等を定める基本計画の検討を行っている」と計画に変更が無いと答弁し、続いて「観戦スペースを兼ねる擁壁とともに1972年大会後に形成された樹木が存在しており、整備に向けては、一部でこれらの伐採が必要。このため、樹木の伐採を最小限とするために必要な樹木調査等を行いながら、併設化に向けた検討を進めてまいりたい」と樹木の伐採についても計画の変更がないと答弁しました。

最後に同市議は「最小限とは言っても、大倉山の素晴らしい自然である樹木を伐採する。最小限だったらいのかということが問われている。宮の森のジャンプ競技場は、72年の冬季オリンピックで日本の選手が金銀銅を飾った選手の誇り、そしてそれを作ってきた市民の誇りが詰まっている場所。宮の森の今の施設を、国際大会の基準に合わせた改修をして今後も活用すべき。拙速に進めてはならない」と求めました。